

河川水域特産資源管理対策事業 アユ資源管理技術開発調査

角 敬・山根恭道・安木 茂

平成元年度から江川を調査対象水域として継続して実施している表記課題について、平成4年度の結果をとりまとめたので報告する。

調 査 方 法

1. アユ遡上量調査

江川の浜原ダム管理者の中国電力株式会社では毎年4～6月にアユ遡上数のカウントをおこなっている。この資料を収集して、アユ遡上量の経年変動の傾向を判断した。

2. 標識放流調査

放流アユの分散範囲、成長などを明らかにする目的で行った。ヒレカット及びリボン標識を付した全長（平均）8.51cm、体重（平均）8.24gのアユを江川の支流である濁川に放流した。放流魚は人口産5,000尾（リボン標識：ピンク 2,500尾 ヒレカット 2,500尾）である。

3. 流下仔魚調査

仔アユ流下量から再生産状況、次年の資源量の判断材料にするために行った。調査日時は下記のとおりである。

- | | |
|----------------------|----------------------|
| ①1992年9月21日 18時～24時 | ②1992年10月8日 18時～24時 |
| ③1992年10月19日 18時～24時 | ④1992年11月4日 18時～24時 |
| ⑤1992年11月16日 18時～24時 | ⑥1992年11月26日 18時～24時 |
| ⑦1992年12月10日 18時～24時 | ⑧1992年12月21日 18時～21時 |

調査場所は江川におけるアユの最下流の産卵場である江津市松川町の川平橋上流である。この場所は河口より約8km上流にある。

なお、使用ネット、詳細な方法、総流下数の推定方法については従来手法（島根水試1987）とまったく同様である。

結 果 と 考 察

1. 遡上量調査

浜原ダムで実施されたアユ遡上量の調査結果によれば、4月で0尾、5月で0尾、6月では1,752

尾と推定された。今年の遡上量の大きな特徴は、4、5月の遡上量が全く見られなかったことである。今年の江川におけるアユ漁獲量は63トンで、前年比29%の貧漁であった。漁業者は今年の天然アユ遡上量の少なかったことを指摘しており、遡上カウント数は実際の遡上量を反映した可能性も考えられる。

2. 標識放流調査

放流状況を表-1に示す。

表-1 標識魚放流状況

リボン色	放流月日	放流場所	平均全長	平均体重	
白	6月17日	濁川	8.51cm	8.24g	江川漁協産

再捕の報告は年々減少の傾向を示している。今年の再捕報告はまったくなかった。今後は標識方法、調査方法の再検討が必要であろう。

3. 流下仔魚調査

図1には流下仔魚の経時的变化を示した。流下量のピーク時は調査日ごとに一定でないが、流下量の多い日には21~24時ころにみられる。

図2には調査日のふ化仔魚の流下量の変化を示した。流下量のピークは10月初旬から10月下旬にかけての相対的に短期間にみられた。流下量の変化パターンをみれば、流下量のピーク時が1つ現れる単峯型であった。

今年の総流下量は約8億尾であった。前年(13億尾)の結果と比較して、約60%に留まった。これが次年のアユ資源にどのように影響を及ぼすかについては今後に残された課題である。

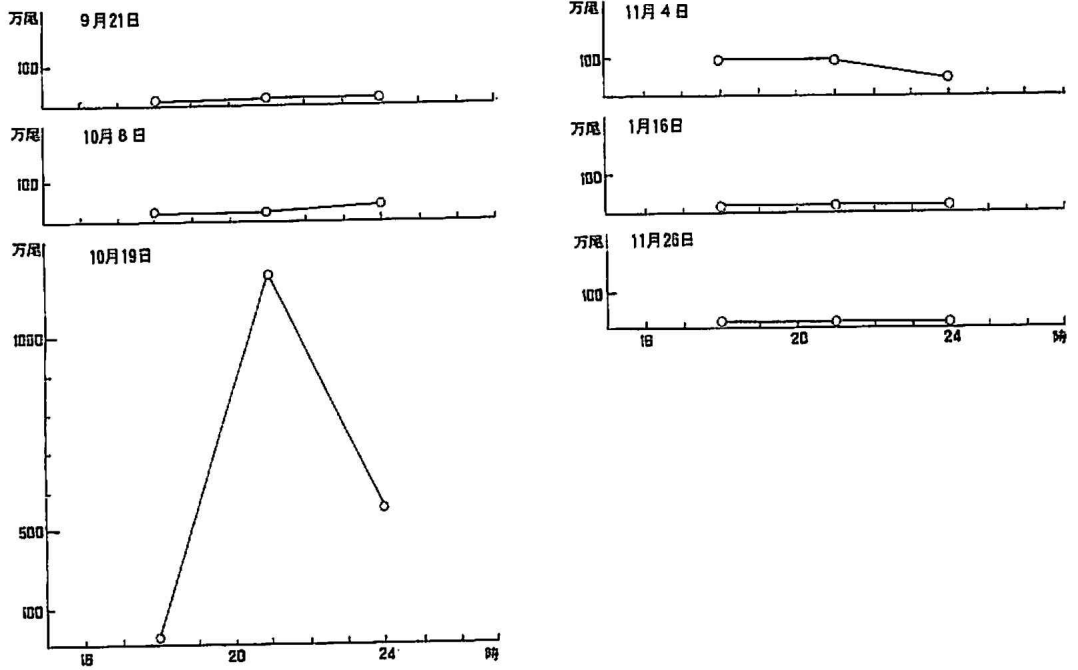


図-1 流下仔アユ量の経時変化

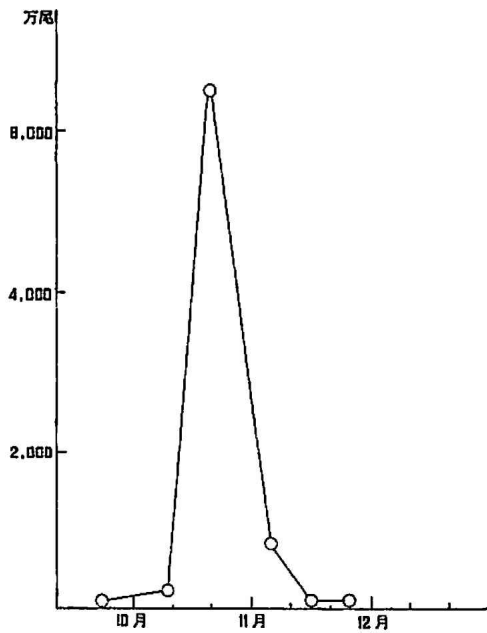


図-2 流下仔魚数の変化